

Deloitte.

デロイト トーマツ



Women in Tech

テクノロジーで、世界を豊かにする
今までとこれからはきっと違う
生きる、働く、楽しむ、未来はもっと自由でいい
未来を創りに、一緒に行こう

「これまで」とは違う「これから」を創る

社会的に女性活躍が叫ばれる中、女性活躍を自分達のビジネスの成長に不可欠な戦略と位置づけ取り組みを始めた私たちは、これからの時代を創るために大きな威力を発揮するとされるテクノロジー領域を志向する女性が少ないことに気づかされました。

デロイトトーマツは、クライアントと共に彼らの未来を創造するお手伝いをするためにテクノロジーサービスを提供しています。その内容は多岐にわたり、事業開発、戦略立案、組織設計、オペレーション設計、実行支援など、どれもテクノロジー領域と関連するお仕事です。テクノロジーとはそれだけ幅広いものであり、私たちはクライアントと共に今とは違う未来を考え、実践していくことにやりがいを感じています。

もしこれから進路や職業を選ぶ皆さんがそのことを知らないとしたら、テクノロジーはもしかしたらもっと楽しいものだとお伝えしたい。この活動から何かを得て、将来どこかで輝くお手伝いができたら。そんな思いからWomen In Techは生まれました。

そして、誰もが自由に、自分で自分の未来を描けるように

これからは、働き方も生き方も、多様な選択肢が広がる時代。私たちの「未来」のかたちは、きっと人それぞれ違うはず。例えば、一度、出産や育児、介護で離職しても、再びセカンドキャリアをスタートできる。起業やボランティア等の新しいトライに前向きに挑戦できる。好きなことを学べる、活かせる。一人ひとりが、自分らしく豊かに輝く。女性が、自由に、働き方や暮らし方を選べる、そんな日本にしたいと願っています。

デロイトトーマツはこれまでのライフスタイルや働く基準を変化させているテクノロジー・デジタル技術の推進に力を入れ、その時代を担う女性を応援します。これからも女性が今よりもっと活躍できる世界を目指して、一緒に未来を創造しませんか。

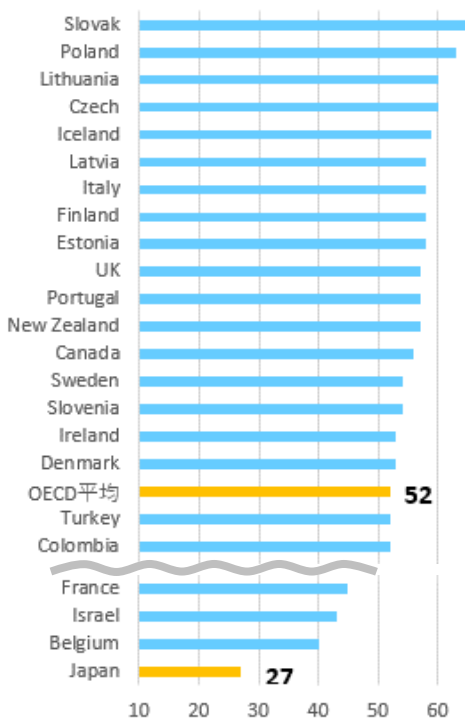
OUR CHALLENGE

テクノロジー分野におけるバイアス払拭を目指す

日本の女子学生が直面する現実

「ビッグデータ」や「AI」、「IoT」などが最先端のIT技術として注目される今日。IT技術の高度化によって、ますます市場ニーズも多様化していくことでしょう。そのためIT需要は今後も増え続け、それに伴って市場規模も拡大していく事が予想されます。今後のIT業界は、世界規模で大きな成長が期待できる分野です。

一方、OECD（経済協力開発機構）による2021年の調査報告では、日本は自然科学や工学を専攻する女子学生の割合がOECD加盟国のうち比較可能な36ヶ国中最下位であり、例えば、高等教育機関で自然科学を専攻した学生の女性比率は、36ヶ国平均52%に対し、日本は27%と、倍近い開きが存在します。



女子は男子よりも理数系科目が苦手なのでしょうか。当然そのようなことは無く、小中高の理数系科目の学力調査では、男女に大差はない

という結果が出ています。ではなぜ、理数系に進む女子が男子に比べて圧倒的に少ないのでしょうか。これにはいくつかの複合的な理由があるといわれていますが、多くの研究で指摘されているのは、家庭や社会におけるジェンダーの在り方および、教員から受ける影響の大きさです。

周囲の「オトナ」がバイアスを作り出す

例えば、「女の子なのに理数系が得意なんて、すごいね!」といった言葉を耳にしたことは無いでしょうか。「女の子なのに」という何気ない一言には「女性は理数系が苦手（=できないのが当たり前）」というステレオタイプの思考が潜んでいます。こういった発言は、自身をステレオタイプ的に知覚している人にとってはポジティブに働くこともあります。そうではない場合はネガティブに作用することも多いのです。試験で良い点を取った場合に「女の子なのにすごいね」と褒められるのと、「すごいね」とだけ褒められた時よりも学習意欲が低くなるなど、試験で良い点を取り、本来高まるはずの意欲が、「女の子なのに」という発言により抑えられてしまいます。このような周囲の「オトナ」たちの一つ一つの小さな言動が積み重なり、バイアスを形成していってしまうのです。バイアスは人間が生きるための脳の機能であるため簡単に解消されることはありません。結果として、女子学生は理数系を進路として選びづらくなってしまふという事象につながっていくのです。

テクノロジー分野で女性が少ないが故の弊害

このように、様々な要因が絡んで小さなジェンダーバイアスが積み重なると、女子は理数系を進路として選びづらくなってしまふ。しかし、「属性に偏りがある」という状況は物事に対する見落としを生みやすく、大きなリスク要因となります。テクノロジー分野でも同様であり、例えば「自動車の衝突実験を行う際に使用するダミー人形は男性の体をモデルに製作していたため、女性や妊婦が事故に遭った場合の影響を十分に想定することができていなかった」という他、「システム開発段階で男性を基準として作成してしまったため、AIが女性をはじいてしまふ（顔認証の精度が劣る、検索結果や翻訳結果で男性を基準に示し

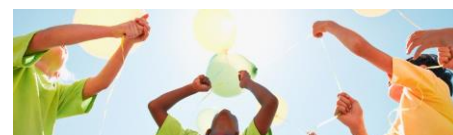
てしまふなど）」といった問題も、世界中の大企業を含む数々の組織でたびたび指摘されています。科学技術の世界で女性の存在が抜け落ちることは、明確なリスクといえます。

後続女性を育てるための、Women in Tech

デロイト トーマツ グループでは、これまでのライフスタイルやビジネスを変化させているテクノロジー・デジタル技術の活用推進に力を入れるとともに、当該分野を担う女性たちを応援しており、「Women in Tech」というユニシアティブを2021年から始動させました。

Women in Techは、学生からキャリア層まであらゆるステージにおいて、テクノロジーの世界活躍の幅を広げる女性たちを支援するために生まれたものであり、「当たり前」ではない発想を形にする取り組みを行っています。

特に女子学生向けの啓発活動には力を入れており、自由な発想で未来をビジョニングする未来ワークショップや、テクノロジー探求カリキュラムといったイベントを始め、社会課題の解決をテーマとしたセミナー、ビジネスでテクノロジーを活用する企業を招いてのパネルディスカッションなどを企画・開催し、デジタル・テクノロジーの世界に触れる機会を提供しています。実際に参加した女子学生からは、最新のテクノロジーやデジタルに驚き感動する声の他、「テクノロジーは私が将来解決したい社会課題に関係していると実感し、テクノロジー系の進路に興味を湧いた」「ITと自分のやりたいことを掛け合わせて、唯一無二のことに挑戦してみたい」といった熱量の高い声が寄せられ、女子学生達の変化に大きな手ごたえを感じているところです。そして、これらのイベントでは「女の子なのに、すごい!」という視点は皆無であり、誰もがひとりの個人としてTechを楽しむ、多様な未来へと繋げていくことができるのです。





OUR MISSION

全ての女性の未来を豊かにするために

教育・スキル開発・機会創出の3分野で全世界で1億人にインパクトを

WorldClassは、教育（Education）、スキル開発（Skills）、機会創出（Opportunity）の3つの分野に焦点を当てて、2030年までに全世界で累計1億人の人々に対してポジティブなインパクトを及ぼすことを目指す、Deloitte Global CEO Punit Renjenが推進するDeloitteの新たな取り組みです。2015年に国連で採択された2030年を達成期限とする「持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals：SDGs）」のゴール4（質の高い教育をみんなに）及びゴール8（働きがいも経済成長も）をスコープとしています。

この一環として、デロイト トーマツ グループにおいても、2030年までに200万人の人々に対してインパクトを及ぼすことを目標に掲げ、取り組みを推進しています。経済や社会の変化のスピードが一層高まる中で、すべての人々が能力を発揮して自立・活躍できる環境を整えていくために、幅広い角度からのインパクトを最大限に追求することが目標です。

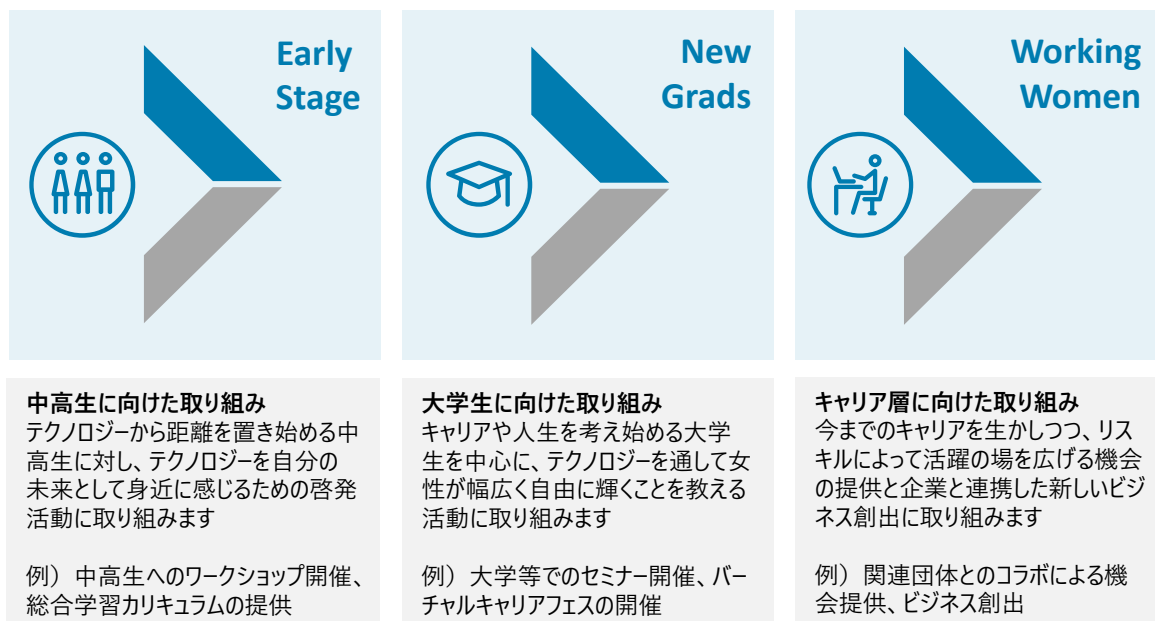
WorldClassを追跡するWomen in Tech

Women in Techでは、特にあらゆる世代の女性たちに自分の未来の可能性に気付いてほしいという思いから、女性のステージを3つ（Early Stage, New Grads, Working Women）に分類し、教育からビジネス創出まで支援活動を展開しています。より多くの女性の未来の可能性を広げるべく、デロイト トーマツ グループのプロフェッショナルが有するスキル、能力、経験、情熱、ネットワークを駆使し、取り組みを推進していきます。

私たちが目指すのは、すべての女性が自由に、楽しく生きる未来。

自分の未来を自由に選択することを当たり前とするマインドを整えていくためには、社会人に対する啓発活動だけでなく、より若年層への教育展開が寛容です。また、女性たちを取り巻く人々、組織、制度も変わっていくことが必要だと考えます。

Women in Techでは社会全体でポジティブなインパクトが連鎖するように、教育機関や自治体など、様々なステークホルダーを巻き込みながら活動を進めていきます。



OUR PROGRAM

ファシリテーター育成講座 / Train the Trainer
対象：教職員など



未来フェス / Virtual Career Fes
対象：大学生



未来ワークショップ / Visioning Workshop
対象：中学1年生～高校3年生



テクノロジーが豊かにあふれる世界を求めて

未来ワークショップは、ファシリテーターや学校の仲間との対話を通じて、潜在的に宿る思考のブロックを外し、まだ見えていない未来を見つけるビジョニング型ワークショップです。

子供たちは、冒頭のアイスブレイクでファシリテーターと言葉のキャッチボールを繰り返すうちに、まだ見えていないテクノロジーが豊かにあふれる世界に少しずつ引き込まれます。そこは「あったらいいな」を叶える場所で、自由な発想と表現力によって生まれます。また、グループワークや社会人へのインタビュー、フィールドワーク、提案プレゼンといったプロセスを効果的に織り交ぜることで、テクノロジーで思い描く未来に通底する価値観を深く理解するとともに、現状との乖離、乖離を埋めるためのソリューションを子供たち自ら考えられるようにすることを狙いとしています。テクノロジーの進路教育や、キャリア教育にご活用いただけるプログラムです。

今の時代、なぜビジョニングが必要なのか

そもそも「ビジョニング」とは、未来をどういう形に描きたいのか、どんな未来を信じたいのかといったビジョンを深掘り、その世界を実現するために必要な新しいアイデアやソリューションを展開していくビジネス手法を指します。

今の子供たちに求められているのは、自らビジョンを描き、課題を見つけ、学び、自ら考え抜く力です。変化の激しい社会に対応するためには、こういった「教科書にはない学習」が求められており、これからの時代においてますます重要な役割を果たしていくでしょう。

ビジョニングファシリテーター育成

ファシリテーター育成講座は、未来ワークショップのファシリテーター人材を育てるための育成プログラムです。ファシリテーションスキルやプレゼンテーションスキルを学ぶことが可能です。

教職員や卒業生などの学校関係者の方々からファシリテーターを担当される場合や、将来的なプログラム内製化をご希望される場合などにご活用いただけるプログラムです。

プログラムでは、トレーニーとなる皆様にまずはビジョニングセッションにご参加いただけます。ビジネスや教育現場においては落としどころを用意して帰着させるディスカッションを行う機会の方が一般的に多くありますが、それとは全く異なる、ビジョニングという手法において世界観を描いていく過程を、参加者としてまずは体験いただけます。自身でビジョニングを体験いただいた後は、どのような声掛け・ファシリテーションを行えばより効果的に参加者の自由な発想を引き出せるか、世界観を描くサポートができるかを体系的に講義にて学んでいただけます。最後にご自身がファシリテーターとなつていただき、実際にビジョニングセッションをファシリテーションしていただくことで、プログラムが完結します。

デロイト トーマツ グループでは、ライフスタイルやビジネスを変化させるデジタル・テクノロジー技術の活用推進に力を入れるとともに、当該分野を担う女性を応援する「Women in Tech」というユニシアティブを2021年に始動しました。Women in Techは、学生からキャリア層まであらゆるステージにおいて、テクノロジーの知見により女性たちの活躍の幅を広げる支援をします。

これからは、働き方も生き方も、多様な選択肢が広がる時代。私たちの「未来」のかたちは、きっと人それぞれ違うはずですが、例えば、一度、出産や育児、介護で離職しても、再びセカンドキャリアをスタートできる。起業やボランティア等の新しいトライに 前向きに挑

次世代女子のキャリアの枠組みを広げる

未来フェスは、企業登壇・対談・パネルディスカッションなどを通じて、企業から最先端のデジタル・テクノロジー活用事例を学び、そのリアルに触れることができるプログラムです。「テクノロジーを通じてキャリアの枠組みを広げる」ことをコンセプトとしています。今後のキャリアを考えるきっかけとしてご活用いただけるプログラムです。

テクノロジーをキャリアの選択肢として捉える

そもそも女子学生自身に、「テクノロジーは理系」「理系は男子っぽい」といった潜在意識があるようです。テクノロジー分野の仕事のイメージが付かず、理系は男子が進む道、という思い込みがあるのであれば、それを解消するためのお手伝いをしたいと考えています。

ビジネスとテクノロジーは切っても切り離せない現代。自分がかねえたい未来ややりたい仕事にテクノロジーが直結していること、男子でなくても理系でなくてもテクノロジーキャリアは詰めること、テクノロジーを知ることによってキャリアの選択肢が広がることを伝え、未来への一歩を踏み出す機会を提供いたします。

戦できる。好きなことを学べる、活かせる。一人ひとりが、自分らしく豊かに輝く。自由に、働き方や暮らし方を選べる。私たちがそんな未来を実現していきましょう。



大久保理絵
デロイト トーマツ グループ 執行役員
Chief Talent Officer, DEIリーダー

CASE STUDY

Case 1

品川女子学院（東京都）

提供プログラム：未来ワークショップ
対象：中学1年生～高校3年生
形式：対面

2021年冬、品川女子学院にて「未来ワークショップ」を開催。「学校生活もっとよくするためには？」という参加生徒にとっての身近な気づきを起点に、ITやテクノロジーの持つ可能性について探求しました。「SDGs×テクノロジー」という切り口で実施したグループワークでは、「フードロスは何でおきる？」「どうしたらなくなる？」「どんなテクノロジーが活用できそう？」と、どんどん思考を深めながら、斬新なテクノロジーを活用した新しいソリューションを作り上げました。



Case 2

神山まると高専（徳島県）

提供プログラム：未来ワークショップ
対象：中学3年生
形式：対面／オンライン

2022年夏、神山まると高専に向けてWomen in Techの「未来ワークショップ」を提供しました。参加者の中学3年生の身近な「学校」にフォーカスを当て、講師とともに未来の学校について考える質問を繰り返し、自分たちの作りたい学校を作るためには何が必要か、どのような思考で考えることができるのか体感してもらいました。その後、グループに分かれ、デロイト トーマツ社員のファシリテートのもと「学校で変えたいこと×テクノロジー」をキーワードに、正解のない問いと向き合いテクノロジーを使用することで、できる世界が広がることを感じていただきました。



Case 3

東京女子大学（東京都）

提供プログラム：未来フェス
対象：大学生
形式：メタバース空間によるオンライン開催

2022年秋、東京女子大学に向けて「未来フェス2022@東京女子」を開催。このプログラムは「次世代のキャリアの枠組みを広げる」というコンセプトのもと、学生に企業におけるテクノロジーの最先端に触れてもらい、将来の選択肢を増やすきっかけを作ることを目的として提供されました。本プログラムはメタバース空間で開催され、オンラインで参加しながらも、リアルでインタラクティブな交流を楽しめるところがポイントです。企業対談やパネルディスカッションを通し、現代社会やビジネスにおいてテクノロジーがどれだけ不可欠かつ重要であることを学びました。



デロイト トーマツ グループ

Women in Tech

〒100-0005 東京都千代田区丸の内3-2-3 丸の内二重橋ビルディング

Tel 03-6860-3300

E-mail womenintech@tohmatsu.co.jp

Deloitte.

デロイト トーマツ

デロイト トーマツグループは、日本におけるデロイト アジア パシフィック リミテッドおよびデロイト ネットワークのメンバーであるデロイト トーマツ 合同会社ならびにそのグループ法人（有限責任監査法人 トーマツ、デロイト トーマツ コンサルティング 合同会社、デロイト トーマツ ファイナンシャル アドバイザリー 合同会社、デロイト トーマツ 税理士 法人、DT 弁護士 法人およびデロイト トーマツ コーポレート ソリューション 合同会社を含む）の総称です。デロイト トーマツ グループは、日本で最大級のプロフェッショナルグループのひとつであり、各法人がそれぞれの適用法令に従い、監査・保証業務、リスク アドバイザリー、コンサルティング、ファイナンシャル アドバイザリー、税務、法務等を提供しています。また、国内約30都市以上に1万5千名を超える専門家を擁し、多国籍企業や主要な日本企業をクライアントとしています。詳細はデロイト トーマツ グループ Web サイト（www.deloitte.com/jp）をご覧ください。

Deloitte（デロイト）とは、デロイト トウシュート マツ リミテッド（“DTTL”）、そのグローバル ネットワーク 組織を構成するメンバー フォーム および それらの 関係 法人（総称して“デロイト ネットワーク”）のひとつまたは複数 を指します。DTTL（または“Deloitte Global”）ならびに各メンバー フォーム および 関係 法人 はそれぞれ法的に独立した別個の組織体であり、第三者に関して相互に義務を課しまたは拘束させることはありません。DTTL および DTTL の各メンバー フォーム ならびに 関係 法人 は、自らの作 および 不作為 についてのみ責任を負い、互いに他のフォームまたは関係法人の作 および 不作為 について責任を負うものではありません。DTTL はクライアントへのサービス提供を行いません。詳細は www.deloitte.com/jp/about をご覧ください。デロイト アジア パシフィック リミテッドはDTTLのメンバーフォームであり、保証有限責任会社です。デロイト アジア パシフィック リミテッドのメンバー および それらの 関係 法人 は、それぞれ法的に独立した別個の組織体であり、アジア パシフィック における100を超える都市（オーストラランド、バンコク、北京、ハノイ、香港、ジャカルタ、クアラルンプール、マニラ、メルボルン、大阪、ソウル、上海、シンガポール、シドニー、台北、東京を含む）にてサービスを提供しています。

Deloitte（デロイト）は、監査・保証業務、コンサルティング、ファイナンシャル アドバイザリー、リスク アドバイザリー、税務、法務などに関連する最先端のサービスを提供し、Fortune Global 500®の約9割の企業や多数のプライベート（非公開）企業を含むクライアントに提供しています。デロイトは、資本市場に対する社会的な信頼を高め、クライアントの変革と繁栄を促し、より豊かな経済、公正な社会、持続可能な世界の実現に向けて自ら率先して取り組むことを通じて、計測可能で継続性のある成果をもたらすプロフェッショナルの集団です。デロイトは、創設以来175年余りの歴史を有し、150を超える国・地域にわたって活動を展開しています。“Making an impact that matters”をパーパス（存在理由）として標榜するデロイトの約345,000名のプロフェッショナルの活動の詳細については、（www.deloitte.com）をご覧ください。

本資料は皆様への情報提供として一般的な情報を掲載するのみであり、デロイト トウシュート マツ リミテッド（“DTTL”）、そのグローバル ネットワーク 組織を構成するメンバー フォーム および それらの 関係 法人（総称して“デロイト ネットワーク”）が本資料をもって専門的な助言やサービスを提供するものではありません。皆様の財務または事業に影響を与えるような意思決定または行動をされる前に、適切な専門家にご相談ください。本資料における情報の正確性や完全性に関して、いかなる表明、保証または確約（明示・黙示を問いません）をするものではありません。またDTTL、そのメンバー フォーム、関係 法人、社員・職員または代理人のいずれも、本資料に依拠した人に関係して直接または間接に発生したいかなる損失および損害に対して責任を負いません。DTTLならびに各メンバー フォーム および それらの 関係 法人 はそれぞれ法的に独立した別個の組織体です。

Member of

Deloitte Touche Tohmatsu Limited

© 2022. For information, contact Deloitte Tohmatsu Group.



IS 669126 / ISO 27001